

# 平成 26 年度 ECO-TOP プログラム エコプロダクツ 2014 出展報告

2014 年 12 月 11 日(木)、12 日(金)、13 日(土)に東京ビックサイトで開催されたエコプロダクツ展に ECO-TOP プログラム(東京都)が出展しました。エコプロダクツ展とは、環境に興味・関心を持っている方、これから子ども達、そしてビジネスパーソンに至るまで幅広い方々が来場し、国内外に活躍する企業、NPO・NGO または行政・自治体などが環境に関する情報を発信する日本最大級の環境展示会。ECO-TOP 展示ブースでは、認定大学の紹介や認定のしくみ、インターンシップの取組などをパネルにより掲示しました。また、ECO-TOP 履修学生が企業・NPO 等・行政機関へのインターンシップで体験した業務・学んだ事を来場者に向けて発表し、来場者との意見交換を交えながら、終始賑わいを見せていました。

ブース内での発表に参加した学生 ※順不同

【首都大学東京】中井優太郎さん(博士 1 年)

【玉川大学】山田秋奈さん(4 年)、高柳礼さん(4 年)、佐藤咲夏さん(4 年)、新井亜季さん(4 年)、片山敦さん(4 年)

【千葉大学】亀井優樹さん(3 年)

【法政大学】杉本悠太さん(3 年)、池上文香さん(3 年)、岡村アリスさん(3 年)、佐野和樹さん(2 年)、沖澤鈴夏さん(2 年)、別井良さん(2 年)

【桜美林大学】萩原遙さん(3 年)、品田遼平さん(3 年)、野村彩さん(3 年)

学生は、約 30 分の時間の中で、パネルを使ったプレゼンテーションを実施。

エコプロダクツ展では ECO-TOP プログラムを全く知らない企業関係者や大学関係者、学生への方や小・中学生に対しての発表ということもあり、発表学生は四苦八苦している場面も…。それでも、短い時間の中で、一番伝えたいポイントに絞った説明や、相手に興味を持ってもらえるような言葉づかいの工夫など、こうした積み重ねが社会に出た時の自信に、そして就職活動への自信にもつながるのではないのでしょうか。

## エコプロダクツ 2014

(於:東京ビックサイト 東展示場)

12/11(木)、12(金)、13(土)

主催:(一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社

来場者数(主催者発表):

12月11日(木) 54,364名

12月12日(金) 60,178名

12月13日(土) 47,105名 (計 161,647名)

## ～来場者に ECO-TOP の取組をアピールすることができました～

- ◆現在の部署で環境に絡んだ取り組みを行っているので、ECO-TOP プログラムを参考にさせてもらいたい。(自治体担当者)
- ◆若い時からこうしたことに取り組んでいくのはすごくいいことだと思います。(一般来場者)
- ◆企業・NPO 等・行政機関の 3 か所に行けることにより、いろいろな経験を積み、学生の成長につながると思います。あとは、履修した学生がここで学んだ事をどう活かして今後につなげていくかだと思います。(大学関係者)
- ◆ECO-TOP プログラムは知りませんでしたが、今後我々も学生のインターンシップの受け入れを考えていくきっかけになりました。(企業担当者)
- ◆環境意識は今後の社会の中で重要点だと思いますので、学生には身になる取り組みではないのでしょうか。(企業担当者)



ブースへの来場者は、環境への関心の高い大学生や環境ビジネスを展開している企業、自治体担当者の方が足を止める場面が多く、「帰ったら後輩に教えてあげたいと思います。」という大学生もいました。学生の間でもこの取り組みがより認知され、広まっていくことにより、自然環境分野のジェネラリストとして活躍する人材も新たに増えていくのではないのでしょうか。その他、学生を受け入れる側である企業・NPO 等・行政機関の方々も「身になる取り組みである」「学生を受け入れてみたい」などの声もあり、地方自治体担当者の方からは、「我々のところでのこういった取り組みを参考にさせてもらいたい」と語られた。

ECO-TOP プログラムは、教育機関だけでなく、社会全体で将来を担う若手人材の教育の場として機能するためのモデルケースにもなっているのかもしれない。

